

## 池原義明

卒業40周年の記念同窓会の年であり、記念行事の一環としての西穂慰霊登山を行うと聞いた。

毎年慰霊登山を続けている事は何年か前に聞いてはいたが、仙台に離れていることや仕事のこともあり……、なかなか参加できなかった。今年からは会社での責任も少し軽くなり休暇も取り易くなった事もある、前日の夜行バスで松本に入り上高地から登るグループに参加することにした。

始めて登った西穂独標はまさに岩稜・岩峰であった。しかし、あの北側の斜面では登山道の横で、這松の脇に何輪かの石楠花の花が咲いているのが印象的であった。この斜面で鈴岡・上島両氏から当時の状況を聞き、またお花畑での追悼式では小林先生のお話などを伺い、大変な事故だったんだと改めて実感した。

あれから42年が経ち、自分たちは卒業40年の記念式典を行う。その節目の年にここに来ることが出来た。改めて11名の冥福を祈るのみである。

仕事柄、上高地から独標に至る間、周辺に出現する地質を見て歩いていた。花崗岩が出現している、途中では焼岳の新期火山の噴出物もかぶっている、西穂山荘周辺はやはり花崗岩だな、アレ、独標とその先西穂にかけての岩稜は柱状節理の発達する安山岩なんだ。そうすると、花崗岩とそれを貫く安山岩、時代は白亜紀から第三紀？、勝手に思い込み、何となく納得して帰ってきた。

これには仙台に戻ってから大きなショックが待っていた。

「穂高の地質ってどうなっているのかな」と思い、地学のガイドブックを見て、?? ?。

「ウェストンレリーフから西穂山荘にかけて分布する滝谷花崗閃緑岩は穂高安山岩類に貫入し、190万年前(!?)のもの……。地表に露出する花崗岩類としては世界でもっとも新しい。」とある。えッ!、ボーっと現地で見て思い込んできたこととすっかり逆ではないか、時代もぜんぜん違う。ネットで調べても、どうもその様である。今回は地質調査に出かけた訳ではないが、まるっきり勉強不足だった。反省しきりである。

先日、5万分の1地質図幅「上高地」を手配した。目の前の仕事とは離れたところで少し勉強をしたいと思い、改めて訪れてみたいと思っている。

